

医療安全学の新たな展開

科学と社会との対話をめざして



会期 **2011.11.19** (土) - **20** (日)

会場 **東京ビッグサイト**
[〒135-0063 東京都江東区有明 3-11-1]

会長 **永井 良三**
[東京大学大学院医学系研究科循環器内科 教授]



このたびの東日本大震災により亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。

また被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

皆様の1日も早い復興をお祈り申し上げます。

第6回 医療の質・安全学会学術集会



医療安全学の新たな展開 —科学と社会との対話をめざして

会長挨拶

第6回医療の質・安全学会学術集会 会長 永井 良三

第6回医療の質・安全学会学術集会は、本年11月19日(土)、20日(日)の両日、東京ビックサイトで開催されます。今回は、「医療安全学の新たな展開—科学と社会との対話をめざして」をテーマといたしました。医療の質と安全をどのように客観的に表現するかは、難しい課題です。医療の内容が変化し続ける中で、自らさまざまな指標を開発して医療の質を測定して安全を阻害する要因を明らかにするとともに、医療事故が発生するメカニズムの解明、さらにこれに基づいて防止策を講ずることは、医療安全の科学を推進するうえで必須といえます。

同時に、科学としての医学のあり方にも目を向ける必要があります。これは今回の原子力発電所の事故を考えれば明らかです。原子力発電のようなシステムを安全に稼働させるためには、部分的な科学や技術だけでなく、全体を俯瞰し想定外の事態に備える必要があります。このことは医療の安全についても全く同様であり、日本の科学技術に共通して関与する問題があると考えられます。いま起こっている社会変動の中で、医療の質と安全を高めつつ、医療のあり方を見直すことは喫緊の課題であり、本学術集会でもこれらの問題を考える機会をもうけたいと考えております。

今回の学術集会は、6つの講演会場にて、会長講演、特別講演、シンポジウム8、教育講演10、ワークショップ7、ランチョンセミナー、一般講演を予定しております。特別講演には、東洋英和女学院大学学長の村上陽一郎先生にお願いしております。まさに今回のテーマ「科学と社会との対話」にふさわしいお話を伺えるものと期待しております。また、外国の指導的立場の先生にも講演をお願いする予定です。現在、50名を超える全国のプログラム委員の先生方をお願いし、シンポジウムを始め計画を練っていただいております。間もなくホームページ等でご案内させていただきます。

昨年度は医療安全全国共同行動主催の「医療安全全国フォーラム」と連動して学術集会が開催されました。今年も同フォーラムを学術集会前日に開催いただき、臨床現場で活躍されている多くの先生方に学術集会にもご参加いただきやすい日程となりますよう企画を進めております。

多くの皆様のご参加のもとに、これからの時代の医療の質と安全について討論を通じて議論を深め、明日からの医療にお役立っていただけることを願っております。